高木 女子1000 国際大会初V

【距離別・女子1000㍍】同走の中国選手を引き離す快走を見せた高木美帆

世界選手権アジア予選・アジア距離別スケート

2カ月で2・5秒縮める

10日、帯広の森屋内スピードスケート場で最終日を行った2010世界オールラウンド選手権大会アジア地区予選会・アジア距離別選手権大会帯広大会は、距離別の女子1000㍍で高木美帆（札内中）が自らの中学記録に0・1秒まで迫る1分17秒87の大会新、リンク新をマーク。地元の声援を受けて国際大会初優勝を飾り、五輪に弾みをつけた。アジア地区予選男子総合は平子裕基（開西病院）が156・017で昨年に続き2位となり、世界選手権の出場枠を死守した。3種目を制した李承勲（韓国）が152・940で圧勝した。同女子は石澤志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）が166・883で田畑真紀（ダイチ）を抜いて2位。5000㍍で7分7秒56の国内最高を記録した穂積雅子（ダイチ）が165・895で総合連覇した。今大会で日本が獲得した世界選手権の出場枠は男子1、女子3。距離別選手権の男子1500㍍では阿部大輝（クレアシオン―日大、白樺学園高出）が1分50秒80で3位に入った。

（古川雄介、金野和彦）

鳴りやまない拍手の中、照れくさそうな笑顔を見せながら、何度も客席に向かってちょこんと頭を下げた。距離別の女子1000㍍で高木美帆が中国の実力者を抑えて優勝。15歳で五輪代表を射止めたスーパー中学生が今度はアジアのタイトルを手中にした。「拍手がいっぱいでうれしかった」と、地元の温かい声援がくすぐったかった。

「表彰台よりタイム」 熱狂よそに冷静に分析

ラスト1周のスピードが段違いだ。30秒29のラップは他の選手より2秒以上速い。「直線とかも結構伸びがあって、滑らせていけた」と高木。細身の体だが、ひとけりが驚異的な推進力を生む。日本スケート連盟の鈴木恵一強化部長は「スケーティングだけでここまで来た。あれに〝力〟が加わるとどうなるか」と伸びしろも無限大と見る。

昨年11月にオーバルで行われた帯広の森競技会での1000㍍は1分20秒42、今回マークした1分17秒87は選考会で樹立した日本中学記録（1分17秒77）にも迫る好記録。わずか2カ月で2・5秒もタイムを縮めた。「表彰台より長野（の選考会）と変わらないタイムが出たのは自信になる。でも最後が疲れたし、スタートももっと速く滑りたい」と向上心も旺盛だ。

家族をはじめ、たくさんの知人、友人も凱旋（がいせん）レースを見守った。高木が所属した札内中サッカー部監督の森英樹教諭（42）もスタンドで観戦し、夏はストライカーとして活躍した教え子の快走に目を見張った。「チームでも男子に負けずに、手を抜くことなく一番よく走ってくれた。この先もある選手だし、五輪を楽しんできてほしい」とエールを送る。

1000㍍は五輪でも滑る種目。選考会での日本中学新はインスタート、今回はアウトスタートでも変わらないタイムを出した。「アウトでどのくらいいけるかが課題だったけど、自分の中でもいいレースができた。表彰台よりタイムが出たのがうれしい」と手応えを語る。周囲のフィーバーぶりをよそに本人は冷静に課題に向き合う。視線の先に五輪をしっかりととらえ始めた。

4年後のソチへ攻めのレース

阿部大輝

○…距離別の男子1500㍍で阿部大輝が自己ベストに迫る1分50秒80で3位表彰台をゲット。「最初から攻めのレースで飛ばしていった。体が動いていいタイムが出た」と納得の表情。五輪選考会では振るわなかったが「4年後のソチ五輪を目指す」と気持ちを新たにしている。

社会人1年目の今季、長距離最強チームの開西病院の練習に加わり力を増した。だが選考会は5000㍍6位、1500㍍は7位。「最後の勝負で五輪を決めた土井（槙悟）先輩の姿を見て、自分は甘いと思った」と痛感した。仕切り直しの来季をにらみ「まずはW杯代表」と意気込む。

距離別1500㍍での3位表彰台に笑顔を見せる阿部大輝

レースも終盤に差し掛かったところで平子裕基が歯を食いしばり顔をゆがめた。得意の1万㍍だが、同走の李承勲（韓国）はるか半周先。総合2位はキープしたが、李に圧倒的な力の差を見せつけられた。「地元でベストの滑りをしたかったが不発だった。中盤で集中力が続かなかった」と白旗を挙げた。

「高速化の著しい5000㍍よりもスピードの遅い1万㍍の方が五輪で上位を狙えるとにらむ。心技体がピッタリとレースに合う状態を平子は〝ゾーンに入る〟と表現するが、「きっちりゾーンに入って足が動いて決まるレースは年に1回あるかないかのレベル」という。長丁場のレースはそれだけ難しい。

1万㍍のラスト1周で28秒台に上げてくる李の速さには「どうあがいても勝てない」と脱帽するしかない。できるのはイーブンペースのレースを磨き、五輪でゾーンに入るよう調整すること。「はまれば1万の方がトップ10には近い。もう一回走り込みや滑り込みで体力を付けたい」と気を取り直していた。

かちまいスポーツ

【アジア地区予選・男子1万㍍】歯を食いしばり力走する平子裕基

平子は総合2位死守

（10日・4位以下日本選手関係分）

＜アジア地区予選＞

【男子】◇1500㍍

日本記録　今井　裕介（メッツ）　1分45秒49
　　杉森　輝大（吉羽木材）
国内最高　杉森　輝大（吉羽木材）　1分47秒49
①李　承勲（韓国）　1分49秒29
　　＝リンク新
②宋　晋守（韓国）　1・50・91
③孫　龍将（中国）　1・51・56
⑤平子裕基（開西病院）1・52・22⑥出島茂幸（十六銀行）1・52・68⑨佐藤克憲（アダプトゲン製薬）1・54・27

◇1万㍍

日本記録　平子　裕基（開西病院）13分19秒64
国内最高　白幡　圭史（コクド）　13分38秒14
①李　承勲（韓国）　13分21秒04
　　＝大会新、リンク新
②平子　裕基（開西病院）　13・44・94
③ドミトリー・ババンコ（カザフスタン）　13・48・18
④出島茂幸（十六銀行）14・2・71⑦佐藤克憲（アダプトゲン製薬）14・13・20

◇4種目総合

①李　承勲（韓国）　152.940
②平子　裕基（開西病院）　156.017
③ドミトリー・ババンコ（カザフスタン）　156.799
⑥出島茂幸（十六銀行）158.336⑦佐藤克憲（アダプトゲン製薬）160.023

【女子】◇1500㍍

日本記録　田畑　真紀（ダイチ）　1分54秒28
国内最高　田畑　真紀（ダイチ）　1分59秒30
①田畑　真紀（ダイチ）　2分0秒50
　　＝大会新、リンク新
②穂積　雅子（ダイチ）　2・0・56
③盧　善英（韓国）　2・1・90
④石澤志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）2・2・84⑨名取英理（十六銀行）2・5・77

◇5000㍍

日本記録　田畑　真紀（ダイチ）　7分0秒09
国内最高　石野枝里子（富士急）　7分10秒59
①穂積　雅子（ダイチ）　7分7秒56
　　＝国内最高
②石澤　志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）　7・8・97
③朴　度暎（韓国）　7・23・34
④田畑真紀（ダイチ）7・27・73⑦名取英理（十六銀行）7・40・11

◇4種目総合

①穂積　雅子（ダイチ）　165.895
②石澤　志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）　166.883
③田畑　真紀（ダイチ）　167.700
⑨名取英理（十六銀行）173.350

＜距離別選手権＞

【男子】◇1000㍍

①李　鐘佑（韓国）　1分10秒41
　　＝大会新、リンク新
②金　永浩（韓国）　1・11・20
③ロマン・クレチ（カザフスタン）1・11・38
⑤西村誉士（仁風林―専大、白樺学園高出）1・11・76⑥上條有司（日本電産サンキョー）1・12・39

◇1500㍍

③阿部大輝（クレアシオン―日大、白樺学園高出）　1分50秒80
⑩渡部知也（池田高）1・52・83

【女子】◇1000㍍

①髙木　美帆（札内中）　1分17秒87
　　＝大会新、リンク新
②張　路（中国）　1・20・03
③邢　愛華（中国）　1・20・18
④仁科有加那（日本電産サンキョー―帯南商高出）1・20・55⑥石田誌保（十六銀行―山梨学院大、池田高出）1・21・09

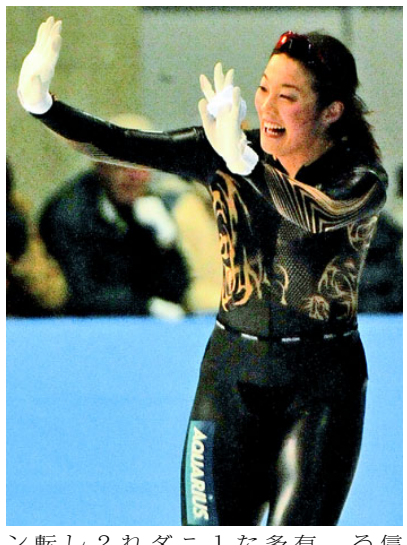
◇1500㍍

⑧高山　梨沙（駒大苫小牧高）2分5秒56

（リンクコンディション＝室温17.4度、氷温マイナス6.2度、湿度27％、気圧1002ｈＰａ、10日午後1時45分現在）

石澤 猛追及ばず2位

地元の声援に手を振って応える石澤志穂。穂積に次いで総合2位に入った



女子5000㍍で石澤志穂が同走の穂積雅子（ダイチ）を終盤猛追するも及ばず総合も2位となった。敗れはしたが「もうちょっと早くスパートをかければ良かった。まだ回数が残っていればいけたかも」と石澤。ペース配分にはまだまだ改善の余地があるが、滑るたびに持久力には自信を増している。

今季に備え有酸素運動を多く取り入れた。40分から1時間のランニングは途中ダッシュを入れつつ1日2、3回こなしたほか、自転車、スイミングも精力的に行った。長岡弥生監督は「体も絞れて（以前より）練習ができている。あと1カ月でどれだけ上乗せできるか」と吸収力に期待を込めた。

橋本会長も観戦 「盛り上がった」

明治北海道十勝オーバルのこけら落としとなる国際大会を日本スケート連盟の橋本聖子会長も観戦。総合表彰式では表彰台からリンクに降りて入賞した五輪代表の石澤らと握手を交わした。「髙木さんが五輪代表に選ばれるなど話題も多く盛り上がった。室内の良い環境で運営もスムーズにいった」と大会の成功を評価した。

橋本会長は「氷の状態も世界スプリントまでにはさらに良くなるだろう。大会を経験し、実績を積み重ねることが重要。オーバルができて良かったとみんなに言われるように」と期待を込めて語った。このほか会場には帯広市出身の清水宏保選手も姿を見せ、後輩スケーターたちの滑りを見守った。

表彰式でリンクに降り、選手たちを激励した橋本聖子会長

代表を発表 日本スケート連盟

日本スケート連盟は10日、世界オールラウンド選手権大会（3月19～21日・オランダヘーレンフェイン）の日本代表選手4人を発表した。

＜世界オールラウンド選手権大会＞

【男子】平子裕基（開西病院）

【女子】穂積雅子（ダイチ）、石澤志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）、田畑真紀（ダイチ）

▽監督＝羽田雅樹（スピード強化委員）

▽コーチ＝川原正行（スピード強化コーチ）、長岡弥生（同）

元五輪代表 大津が現役引退

スピードスケートでトリノ五輪に出場した大津広美（25）＝富士急―白樺学園高出、更別村出身＝が10日、引退を表明した。15日付で所属先の富士急を退職する。

トリノ五輪では1500㍍とチームパシュートに出場、2度目の五輪を目指してきたが、昨年末に行われたバンクーバー五輪選考会で落選した。今後は道外の造園関係の学校に進むことにしている。

「選考会では気持ちが入ったレースができ悔いはない。スケートだけではなくいろいろな世界を見てみたい。地元に帰って来る機会があれば少年団にも恩返ししたい」と語った。

釣具エサ　アクツ釣具店　帯広市西4条南26丁目1　☎23-1473

記録の速報は▼kachimai.mobi　写真がほしい▼TEL0120-25-9410　Eメール▼sports@kachimai.co.jp　ファクス▼0155-25-2700